

平成22年度第1回愛知県道德教育推進会議協議の概要（議事録）

日時：平成22年6月1日（火）14：00～16：00

- 1 開会
- 2 愛知県教育委員会あいさつ（義務教育課長）
- 3 委員紹介
- 4 議長・副議長選出
  - ・ 議長 中野 靖彦 委員
  - ・ 副議長 平松 サナエ 委員
- 5 議長・副議長あいさつ
- 6 議事

協議題：人間関係を築く力や社会性を育む道德教育の在り方

- ① 啓発物を通して呼びかけたい内容について
- ② 啓発物を効果的に活用するための方法について

議長：カレンダーの呼びかけの言葉の流れについてご意見をください。

委員：夏休み、冬休みは、家庭で過ごす場合が多いので、親子のふれあいということをつくっていい。この時期は、家庭で子どもを育てる。呼びかける言葉は、お手伝いなど、子どもの生活の場面を想定して考えたい。

委員：呼びかけたことと書き込むことの整合性はどうか。記入は、何を書き込むのかを明確にしてほしい。

議長：学校の中で、話し合っただけで目標をつくらせて記入するための欄である。

委員：大きなテーマに対して、自分の目標をつくるのであれば、テーマの下に欄を作るといいと思う。

事務局：カレンダーそのものは、自分の予定を書くことを想定した。身近に貼って見ていただける機会を増やしたいと考えた。いろいろ工夫して使っていただきたい。

議長：呼びかけたい言葉に対して、学級や家でどんなことをしようかということを書いてもらい、話題にしてもらえばいいと思う。

委員：呼びかけたい言葉は、キーワードだけ書いておいて、後の具体的な内容は、話し合っただけで決めれば良い。

委員：カレンダーには、何を書き込むのか。

委員：挨拶やしつけもやった方が良い。親子や近隣とのふれあいもあると思う。

議長：カレンダーは、それぞれの予定を書いて、毎日呼びかけたい言葉にも触れてもらえばいいと思う。

委員：緩やかなやり方というのを、教師がどれだけ理解し、指導するか。教師の裁量も必要だと思う。その塩梅が難しい。

委員：カレンダーを配付し、書き込むのか。スローガンが目に入るの、気を付けるようになるだろうということか。

委員：カレンダーは、予定を書くと思った。スローガンが大きいので、学校や家庭で決めたことを重視するのなら、スローガンを小さくして、自分で決めたものを大きく書いた方がいいのではないか。PTAでも取り組んでもらいたいことを出す。やることと決められていると、やって欲しいことがいろいろ増えてしまう。

委員：学校がプリントアウトして使うときに、あのカレンダーは、使えるぞというような、インパクトのあるものにならないか。例えば、「カウントダウンカレンダー」として、

「一日一日を大切に生きよう。」「残り後何日ですよ。」ということで、ちょっと面白いと思ってもらえる。正攻法のだけのものでは、なかなか使ってもらえない。

委員：学校なり家庭なりが使っていくうえで、この形だけでという場合に、堅い感じがする。道德ってこんなに堅いと思う。実践事例に学校名はいらぬのではないか。

議長：カレンダーの空欄は、家でメモ的に使ってほしい。実践校の学校名は、この学校ではこんなことをやっているということで入れてあるのではないか。

委員：呼びかけたい言葉をより具体的に示した方がいい。警察では、子どもと親との会話が少なかったり、家庭に問題があって子どもが非行に走ったり、という事例を垣間見る。あまり漠然としていると、我々の求めるところと家庭が目指しているところがだんだん逸れていってしまう。ある程度、子どもたちが想定できる具体的な呼びかけたいことを示した方がいい。

委員：こういうような様式だと、カレンダーの中に守れたかどうかを書きたくなる。

事務局：実践校の実践やここでの話し合いの内容を先生達の目に触れるようにしたいということがあつた。元々は、職員室に貼ってもらうようなものを想定していた。せつかくないので、教室や家庭にも配付したいという希望があつた。カレンダーも元々は、書き込みはなかつた。書き込みができると、近くに寄つて見てもらえるのではないかとということで、書き込みができるカレンダーにした。実践校の取組に興味をもつて見て欲しい。協議題から出てきた考えを知らせていきたい。内容については、協議題から外れないようにしたい。WEB 配信なので、見出しの所を2通り作るとか、空欄のものを作ることくらいはできる。

議長：カレンダーの書き込みは、誕生日を書き込む程度に気楽に考えて欲しい。あまり縛らない方がいいと思う。

委員：参考例で、「輝く」とか「夢」とか書いてあるが、こういう言葉があると、輝かない自分はダメなんじゃないか夢のない自分はダメなんじゃないかということになる。

委員：自分の境遇で受け止めて、呼びかけの言葉は、そのまま子どもの心に飛び込むので、時間をかけて決めて欲しい。

委員：自分自身に関することであれば、自分を理解するとか自分を表現するということがキーワードになる。学校だと4月5月である。友だちを理解するとか自分を主張しようというキャッチフレーズをつくれればいい。一方、他者とどう関わるかということになると、もう少し具体的なものを載せてもいいのではないかと思う。4月から3月を見ると、自分を理解するというキーワードと周りを理解するキーワードと自尊心を育てるキーワードと達成感を感じるキーワードと、自分を振り返るキーワードを連想できる。そういうキーワードがあれば、キャッチフレーズも具体的に決めやすいかと思う。もしこれが配信されると、利用度は高いと思う。自分はがんばりカレンダーを作っている。利用価値は高いと思う。

議長：良いキーワードがあつたら出して欲しい。

委員：社会性とか人間関係を築く力というとなつた友だちは自分と違う考えをしているということ認識し、相手を認めるということだと思ふ。他の人との関わりでいうと、人と違つていることが特徴だ。人と違つると排除しようとする風習が日本にあるような気がする。経済の中でも、世界に飛び出し中国などで活動しようとしても、どうしても他の国の人種の多様性を認めにくくて、日本企業が挫折するということがあつた。

違った点は特徴だからそれを認めて仲良くしようという言葉が欲しいと思う。

議長：友だちの良さを見つけようとする。見つけた後でみんなそれぞれ違う良さがあるところから入っていく。そして、他人と関わっていく。次に集団や広い人間関係になっていく。友だちだけじゃなくて知らない人にも何かできるんじゃないかという形で広げていく。その後で自分に戻っていく。

委員：言葉の問題で、言葉と気持ちを結びつけて考えていくことができるか。自分も大切にして他人も大切にする言葉もキャッチフレーズにして欲しい。

議長：自分の思いをしっかりとつことも大切だと思う。

委員：自分の思いを出すことは大事だと思う。輝くとか夢とか抵抗のある子もいるのなら、その辺の吟味はきちんとやらなくてはならない。このカレンダーは、リーフレットの代わりなのか。

事務局：ここで話し合ったことを広めていくためのリーフレットであるが、今までは、なかなか多くの人目に触れない。この方が、多くの人目に触れるのではないか。

委員：メッセージが絶えず目に触れるので意味があると思う。タイトルがあれば、思いが伝わるのではないか。

議長：先ほど自分の意見を言うことが大切と言ったが、まず、人の言うことに耳を傾けることが大事ではないか。

委員：今議論されている言葉は大切。同じ言葉を日常絶えず目にすることで、何気ない行動をその視点で見ることができるようになるのではないか。カレンダーにして、目に触れるようにするのは、大変いいこと。視点としてのキャッチフレーズが難しいというのは、おっしゃる通り。Webで発信するという事なので、それぞれの地域に合った言葉、視点に代えればいいのではないか。

議長：呼びかけの言葉をやや弱めて、自分たちで考えたことを書き込んで使っていくということか。

委員：視点というのは、この会議の主張として載せるべき。代えたいところは、代えれば良い。そういう余地を残したい。視点を整ったキーワードとして見つけ出すのは大変なこと。参考例を挙げておいてもらえるとスムーズに行くと思う。

議長：「最後は、一年を振り返ってみよう」くらいでもいいと思っていた。

委員：集団活動に関するところは、「ボランティア活動を見つけてやってみよう」というのはどうか。

委員：学校で使うとき、書き込みをするのはだれだろうか。

事務局：学級で話し合っ、先生なり係なりが書くと思う。家庭であれば、親子で話し合っ、書くと思うし、子どもが自分で書くと思う。

委員：親や先生が教えるということではなくて、自分で気が付いてくれないといけない。親と一緒に書き込んで、相手の良さを見つけようということで幅広く考えてもらえると良い。友だちのこういうところが良かったというようなことができると思う。カレンダーのマスの中に書いていくこともできると思う。

委員：各学校に道徳教育推進教師がいると思う。学校では、目標を設定していると思う。これを配るときに、こちらから題を付けて出すのではなく、呼びかけたい言葉をたくさん付けておいて、学校にあったものを設定してもらおうと良いのではないか。家庭に配付するのであれば、学校で決めたものを載せても良いし、家庭で決めてもら

っても良いと思う。

議長：一年の流れについてはどうですか。

事務局：同じ道徳でもいろいろねらいがあると思う。こちらの協議題に合ったものを載せておきたい。市町村や学校で目標を設定していると、取り組むものが重複してしまい、取り組みにくくなる懸念があるかも知れない。取り組むということではなく、貼っておいてもらうだけでも良いと思う。

議長：話題になるだけでもいいと思う。しかし、活用されなければ、何にもならない。家庭に一枚行き渡るようにしてもらいたいし、教室にも貼ってもらいたい。そのためにどうしたら良いかということについて意見を頂きたい。

委員：なるべく選べるような形がいいと思う。データで配信されるならば、その方がいい。参考にあるような言葉だとかなり抽象的で分かりにくい。具体的にどう行動すると良いのかが分からない。それに加えて、具体的な行動に移せるような言葉で呼びかけていくのもいいかと思う。

委員：一つに絞るとなると簡単に決めてしまっているのかと思う。当てはまらない子どももいる。学校なり家庭なりが選べる形の方がいいと思う。

議長：効果的に活用する方法についてご意見を頂きたい。

委員：家庭にこれを貼ってもらおうと思うと難しい。お便りなら貼るので、学校の行事を書き込んで配付してもらおうといいと思う。

議長：配付の時に子どもに書いてもらうのも一つだと思う。

委員：要は、カレンダーに二つの目的がある。視点にあった呼びかけがある。指定校の取組をお知らせしたいという願いがあると思う。呼びかける言葉について使いやすいように選べるようにという意見がたくさん出たが、それも活用するための一つだと思う。低学年でも中学生でも使えるように考えてもらいたい。

委員：友だちの良さを見つけようということが学級に広まれば良いということであるならば、それが大きな見出しであった方がいい。カレンダーは、メモ代わりである。先生の使い方のレベルによってもっと活用できればいいという幅広いものならばいいのかなと思う。テーマとしての友だちの良さを見つけようというのなら、どこからも見えるように言葉もある程度の大きさがあった方がいい。お金があるのならば、学級に一枚ずつ配れるといい。学級によって柔軟に活用できるといい。

議長：柔軟に使っていただくには、どのように出していくのがいいのかということになる。ぎっちりこれに添ってやらなくてはいけないということではなく、話題にしながら毎日目に触れていくという形で活用していただくという方向で進めたい。

委員：活用がたくさんできるといいと思う。学校で子どもが行事を書き込んで、家に帰り、親と子で、キャッチフレーズについての取組をしてもらえると、これが生きてくると思う。学校の行事についても頭に入ると思う。

議長：多くの方に見ていただきたい。こういうことが家庭の細部まで行き、話題になってもらいたい。